劇団文化座公演

命どう宝

ぬち

作＝杉浦久幸
演出＝鵜山仁

出演＝白幡大介
藤原章寛
青木和宣
佐々木愛
他

Established 1942.
劇団 文化座

題字：本橋佳園

美術：乘峯雅寛　照明：古宮俊昭　音響：齋藤美佐男
衣装：岸井克己　音楽：吉田さとる
舞台監督：鳴海宏明　制作：中山博実

【出　演】
白幡大介　姫地実加　藤原章寛　高橋未央
津田二朗　青木和宣　米山実　沖永正志
井田雄大　大山美咲　桑原泰　田中孝征
早苗翔太郎　季山采加　泉建斗　為永祐輔
萩原佳央里　若林築未　阿部由奨　神野司　伊藤萌瑛夏
佐々木愛

劇団文化座公演

命どぅ宝（ぬちどぅたから）

戦後の沖縄復興と日本復帰に生涯をかけ闘い抜いた、瀬長亀次郎と阿波根昌鴻の不屈の魂がいま再び蘇る――

〈阿波根昌鴻〉
白幡大介

写真：坂本正郁

〈瀬長亀次郎〉
藤原章寛

▸▸九演連の皆さまへ

『命どぅ宝』を例会に取り上げていただき感謝申し上げます。この作品に、私は特別な思い入れを持っております。

私は1969年製作の「劇映画・沖縄」に出演して二度の渡航拒否を受けた経験があります。（その頃沖縄に渡るにはパスポートだったのです）

その時に感じた理不尽さは、復帰を果たして50年以上経った今も少しも変わらず、沖縄は日々防衛と称して日本の最前線の緊張を強いられているのです。今や日本全土が沖縄化されそうな不安な予兆の中で、私は沖縄の人々の魂の歴史に迫りたいと思いました。

自然を崇拝し、喜びと悲しみを歌と踊りに乗せて、決して荒ぶることなく静かに抵抗の姿勢を崩さないウチナンチューの心の中に、かつて本土復帰の際、民衆の最前線で果敢に闘った瀬長亀次郎と阿波根昌鴻の魂がしっかり宿っているのだということをお伝えしたいと思うのです。

企画・出演　佐々木愛

これまでの文化座公演 沖縄作品10本

1956年『ちぎられた縄』〈創立15周年記念〉
作：火野葦平　演出：佐佐木隆

1984年『海の一座』
作：謝名元慶福　演出：八木貞男

1988年『ハブの子タラー』
作：謝名元慶福　演出：小森安雄

1989年『花売り』
作：謝名元慶福　演出：入谷俊一

2001年『若夏に還らず』
原作：森口豁「最後の学徒兵」　脚本：堀江安夫
演出：佐々木雄二

2008年『月の真昼間（まぴるーま）』
原作：森口豁「子乞い」　脚本：杉浦久幸
演出：原田一樹

2010年『銀の滴 降る降る まわりに 首里1945』
作：杉浦久幸　演出：黒岩亮

2012年『貘さんがゆく』〈創立70周年記念〉
作：杉浦久幸　演出：原田一樹

2017年『命どぅ宝』〈創立75周年記念〉
作：杉浦久幸　演出：鵜山仁

2018年『太陽の棘』
原作：原田マハ　脚本：杉浦久幸　演出：田村孝裕

～くらしの中に演劇を～　**宮崎市民劇場**　第２０３回例会

２０２６年７月３１日（金）　開演１８：３０　（開場１８：００）

会　場：　宮崎県立芸術劇場　（メディキット県民文化センター）演劇ホール

（大人）入会金２５００円/月会費２５００円　（学生）入会金１５００円/月会費１５００円

問い合わせ　〒880-0805　宮崎市橘通東 3-3-8 カブトビル３F　TEL0985-62-0075